

# 平成 13 年度事業報告書

## 事業報告

自 平成 13 年 4 月 1 日

至 平成 14 年 3 月 31 日

### 【 概 況

この一年わが国経済は、長期にわたる低迷で、依然として回復の兆しが見えず厳しい状況で推移しました。しかし一方では余暇時間の増加や高齢化社会の進展等社会状況の変化を背景に、「心の豊かさゆとり」ある生活を送る為に、様々なスポーツ活動を積極的に実践しようとする気運が高まっております。スポーツは益々身近なものになり、健康増進への欲求はさらに拡大するものと予想されます。

当財団は設立以来 23 年を経過し、本年度もその事業目的であるスポーツ科学の研究助成並びにオリンピック事業の推進、トップレベルの選手育成・強化を目的とした団体、また同時に国民スポーツのより一層の健全な普及・発展に寄与することを目的とした団体への助成を中心に活動を行うなど、関係者各位のご支援により所期の目的を達成することができました。

さらに、機関誌として「デサントスポーツ科学」Vol. 22 を刊行し前年度の事業成果を広く公表いたしました。

### 【 研究及び助成報告

(1)健康の増進と体力の向上及びスポーツ関連科学に関する研究委託並びに調査・研究に対する助成。

#### 1) 研究委託 (200 万円)

理事会の諮問機関である学術委員会において慎重に審議した結果、平成 13 年度の学術研究課題として、以下が最もふさわしいものとし、理事会の承認を得て研究委託を行いました。

「競泳用水着がパフォーマンスに与える影響」

研究リーダー 筑波大学 野村 武男

#### 2) 課題研究 (100 万円)

学術委員会・選考委員会選定テーマ「ヒトの機能を補う方法とスポーツ」についての調査・研究に対する助成で、審議の結果、応募総数 12 件のうち、下記 1 件に対し助成を行いました。

「筋力発揮回復に及ぼす近赤外線照射の効果」

研究リーダー 金沢大学 出村 慎一

### 3) 自由課題研究 (総額 940 万円)

体育学・健康科学・人間工学・被服科学・運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術及びその他広くスポーツ振興に寄与する学術研究に関する講座をもつ大学、これに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ、及び高校生から幼児までの教育機関に奉職しており、前述した分野で研究または調査活動を行っている個人またはグループに対し公募いたしました結果、139 件にのぼる応募の中から当財団学術委員会選考委員によりまして慎重かつ厳正に審査を行ない、次の 23 件に決定、理事会の承認を得て研究助成を行ないました。

#### 最優秀入選 (100 万円)

「高齢者夜間頻尿に対する運動療法の効果 夜間排尿回数と体水分量・筋肉量の比較」

琉球大学

菅谷 公男

#### 優秀入選 (各 50 万円)

「短期間の筋力トレーニングや寝たきり生活による力調節安定性 (steadiness) の適応」

東京大学

篠原 稔

「身体活動時における尿中一酸化窒素化合物 (NO<sub>x</sub>) の動態とその生理的意義の解明」

東京医科大学

友田 一夫

「心肺運動負荷試験における新しい無酸素閾値指標の検討」

国立循環器病センター研究所

下内 章人

「水中での不整脈発現と安全基準に関する研究 水位と呼吸制限の相互作用」

熊本大学医療技術短期大学部

伊藤 雅浩

「筋音図を用いた力調節安定性 (steadiness) 評価システムの開発」

早稲田大学

吉武 康栄

「4 次元的動態解析による高齢者転倒予防運動の効果判定に関する研究」

東京慈恵会医科大学

殷 祥洙

#### 入選 (各 40 万円)

「着心地評価のための上半身可動性被服圧計測用ダミーの試作」

鳥取大学

伊藤 紀子

「運動習慣が子供の心臓自律神経活動動態および体温に及ぼす影響」

兵庫県立看護大学

柴田 真志

「骨密度に及ぼす運動と遺伝的素因の相互作用」

筑波大学

徳山 薫平

「スポーツ時の運動筋血流量はメンタルトレーニングにより増強できるか？」

広島大学

松川 寛二

「暑熱環境下での長時間の間欠的運動パフォーマンスに対する水分補給の効果」

平成国際大学

スポーツ科学研究所

安松 幹展

「常圧低酸素ハウスを利用した Living high, training low 法の有効性」

順天堂大学

内丸 仁

佳作入選（各30万円）

「運動負荷時の血圧反応性を指標とした高血圧発症リスクの評価とその実践的応用に関する研究」

和歌山県立医科大学

宮井 信行

「中高年女性の陸上および水中歩行時の呼吸循環応答と下肢筋活動」

別府女子短期大学

正野 知基

「水着の形状が水泳中の体温調節反応に及ぼす影響」

長崎大学

田井村 明博

「長期にわたる運動の実践が循環器系疾患者の血液流動性に及ぼす影響」

国際科学振興財団

中垣内 真樹

「短距離走におけるスピード持続能力評価に有効なコントロールテストの検討」

松江工業高等専門学校

森田 正利

「カベクトル制御課題における二関節筋活動度決定機序の解明」

国立身体障害者

リハビリテーションセンター研究所

野崎 大地

「運動に伴う乳房振動の特性分析とスポーツブラジャーの防振デザインへの反映」

京都女子大学短期大学部

岡部 和代

「発汗の動的特性による衣服の着心地評価に関する研究」

日本女子大学

佐藤 真理子

「陸上と水中での運動終了直後の心拍数の回復過程の差違に関する検討」

山口大学

丹 信介

「中高年齢者の歩行におけるリズムとゆらぎ現象に関する研究」

東京大学生産技術研究所

鶴岡 政子

以上、研究委託1件、課題研究1件及び自由課題研究23件の研究成果報告に

つきましては、平成 14 年 6 月発行予定の機関誌「デサントスポーツ科学」Vol. 23 において広くわが国の研究機関、関係者に公表いたします。

(2)スポーツ科学の国際交流を目的とする団体の助成（100 万円）

諸外国とのスポーツ科学における人的・学問的交流を積極的に推進するため、日本体力医学会国際交流基金への助成を行いました。

(3)スポーツの振興・発展を目的とする団体の助成（500 万円）

オリンピック事業の推進ならびにトップレベルの選手育成・強化を目的とし財団法人日本オリンピック委員会に、また、国民スポーツのより一層の健全な普及・発展に寄与することを目的として財団法人日本体育協会にそれぞれ 250 万円の助成を行いました。

## 【 】活動報告

(1)機関誌「デサントスポーツ科学」Vol.22 発行

平成 13 年 6 月

(2)第 23 回定時総会及び助成金目録贈呈式

日時：平成 13 年 6 月 7 日（木）

11:30～12:00 理事会・評議員会

12:00～12:30 助成金目録贈呈式

12:30～13:30 懇親会

場所：株式会社 デサント 東京支店

議題：平成 12 年度事業報告書承認の件  
平成 12 年度収支決算書承認の件  
任期満了に伴う役員及び評議員選任の件  
その他

(3)第 10 回課題学術研究 第 23 回自由課題学術研究委託及び自由課題学術研究

助成金交付 平成 13 年 7 月 10 日

(4)日本体力医学会国際交流基金への寄附金支出

平成 13 年 8 月 10 日

(5)第 11 回課題学術研究及び第 24 回自由課題学術研究公募開始

平成 13 年 9 月 1 日

(6)第 10 回課題学術研究、第 23 回自由課題学術研究委託及び自由課題学術研究

成果報告書提出締切

平成 13 年 11 月 25 日

(7)第 11 回課題学術研究及び第 24 回自由課題学術研究公募締切

平成 13 年 11 月 10 日

(8)第 11 回課題学術研究及び第 24 回自由課題学術研究公募申請書審査

平成 13 年 11 月 10 日～平成 14 年 2 月 10 日

(9)財団法人日本オリンピック委員会ならびに財団法人日本体育協会への寄附金  
交付 平成 13 年 12 月 25 日

(10)学術委員会・選考委員会

日時： 平成 14 年 3 月 1 日（金） 12:00～14:30

場所： 株式会社 デサント 東京支店

議題： 第 24 回自由課題学術研究委託テーマ選定の件  
第 11 回課題学術研究公募審査の件  
第 24 回自由課題学術研究公募審査の件  
第 12 回課題学術研究テーマ選定の件  
その他

(11)理事会・評議員会

日時： 平成 14 年 3 月 25 日（月） 10:00～11:00

場所： 株式会社 デサント 大阪本社

議題： 平成 14 年度事業計画書案承認の件  
平成 14 年度収支予算書案承認の件  
その他

以 上

# 平成13年度収支決算書

## 収 支 計 算 書

平成13年4月1日から平成14年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
<b>収 入 の 部</b>				
1 基本財産運用収入	(16,450,000)	(16,450,286)	( 286 )	
基本財産利息収入	16,450,000	16,450,286	286	
基本財産配当金収入	0	0	0	
2 雑 収 入	(50,000)	(33,408)	(16,592)	
受取利息	50,000	22,908	27,092	
雑 収 入	0	10,500	10,500	
3 寄 付 金 収 入	(15,000,000)	(15,000,000)	(0)	
寄付金収入	15,000,000	15,000,000	0	
4 特定預金取崩収入	(0)	(11,000,000)	( 11,000,000 )	
助成金積立預金取崩	0	11,000,000	11,000,000	
当期収入合計	<b>31,500,000</b>	<b>42,483,694</b>	<b>10,983,694</b>	
前期繰越収支差額	<b>3,190,000</b>	<b>3,115,846</b>	<b>74,154</b>	
収 入 合 計	<b>34,690,000</b>	<b>45,599,540</b>	<b>10,909,540</b>	
<b>支 出 の 部</b>				
1 事 業 費	(28,900,000)	(28,043,109)	(856,891)	
(1) 課題研究費	1,000,000	1,000,000	0	
(2) 委託研究費	2,000,000	2,000,000	0	
(3) 助成金支出	9,400,000	9,400,000	0	
(4) 寄附金支出	6,000,000	6,000,000	0	
(5) 資料収集調査費	2,000,000	1,655,000	345,000	
(6) 印刷製本費	8,500,000	7,988,109	511,891	
2 管 理 費	(4,340,000)	(3,759,948)	(580,052)	
(1) 給与手当	1,040,000	1,044,441	4,441	
(2) 会議費	1,500,000	1,397,487	102,513	
(3) 旅費交通費	1,200,000	1,050,000	150,000	
(4) 通信運搬費	100,000	82,560	17,440	
(5) 消耗品費	100,000	0	100,000	
(6) 印刷製本費	200,000	73,500	126,500	
(7) 雑 費	200,000	111,960	88,040	
3 特定預金支出	(0)	(0)	(0)	
助成金積立預金	0	0	0	
4 予 備 費	(500,000)	(0)	(500,000)	
当期支出合計	<b>33,740,000</b>	<b>31,803,057</b>	<b>1,936,943</b>	
当期収支差額	<b>2,240,000</b>	<b>10,680,637</b>	<b>12,920,637</b>	
次期繰越収支差額	<b>950,000</b>	<b>13,796,483</b>	<b>12,846,483</b>	

## 正味財産増減計算書

平成13年4月1日から平成14年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金		額
<b>増 加 の 部</b>			
1 資 産 増 加 額			
当期収支差額	10,680,637	10,680,637	
増 加 額 合 計			10,680,637
<b>減 少 の 部</b>			
1 資 産 減 少 額			
助成金積立預金取崩	11,000,000	11,000,000	
減 少 額 合 計			11,000,000
当期正味財産減少額			319,363
前期繰越正味財産額			622,252,996
期末正味財産合計額			621,933,633

# 貸借対照表

平成14年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金	額
<b>資 産 の 部</b>		
1 流動資産		
普通預金	8,846,483	
未収金	4,950,000	
流動資産合計		13,796,483
2 固 定 資 産		
(1)基 本 財 産		
定期預金	100,572,877	
投資有価証券	475,564,273	
基本財産合計	576,137,150	
(2)その他の固定資産		
記念事業積立預金	10,000,000	
助成金積立預金	22,000,000	
その他の固定資産合計	32,000,000	
固定資産合計		608,137,150
資 産 合 計		621,933,633
<b>負 債 の 部</b>		
<b>正味財産の部</b>		
正味財産		621,933,633
(うち基本金)		576,137,150
(うち当期正味財産減少額)		319,363
負債及び正味財産合計		621,933,633

## 計 算 書 類 に 対 す る 注 記

### 1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法について

投資有価証券 …… 総平均法による原価法を採用している。

(2) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金（基本財産となるもの及び特定預金を除く）及び未収金・未払金など短期債権・債務を含めることにしている。なお、前期末及び当期末残高は

3. に記載のとおりである。

### 2. 基本財産の増減及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
定期預金	100,572,877	0	0	100,572,877
投資有価証券	475,564,273	0	0	475,564,273
合計（基本金）	576,137,150	0	0	576,137,150

### 3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

（単位：円）

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	3,115,846	8,846,483
未収金	0	4,950,000
合計	3,115,846	13,796,483

# 財 産 目 録

平成14年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金	額
<b>資 産 の 部</b>		
1 流動資産		
現 金	0	
普通預金 三井住友銀行船場支店	8,846,483	
未収金	4,950,000	
流 動 資 産 合 計		13,796,483
2 固定資産		
(1)基本財産		
定期預金 三井住友銀行船場支店	572,877	
北國銀行大阪支店	100,000,000	
投資有価証券		
ユーロ円債	100,000,000	
東京湾横断道路債 券	299,427,123	
株式会社デサント株式(1,522,743株)	76,137,150	
基本財産合計	576,137,150	
(2)その他の固定資産		
記念事業積立預金		
三井住友銀行船場支店	10,000,000	
助成金積立預金		
三井住友銀行船場支店	22,000,000	
その他の固定資産合計	32,000,000	
固定資産合計		608,137,150
資 産 合 計		621,933,633
<b>負 債 の 部</b>		
1 流動負債		
負 債 合 計		0
正 味 財 産		621,933,633